

2024年12月6日
COP29速報セミナー

適応・損失と損害に関するCOP29の結果

適応と水環境領域 研究員

松尾 茜

COP29における、適応・損失と損害に関する議題

● Baku Climate Unity Pact

- 気候資金に関する新規合同数値目標 (NCQG)
- 緩和作業計画 (MWP)
- 適応に関する世界全体の目標(GGA) [決定文書](#)

● 適応に関する議題

- 国別適応計画(NAP)
- 適応委員会(AC)の報告およびレビュー

● 損失と損害 (ロスダメ) に関する議題

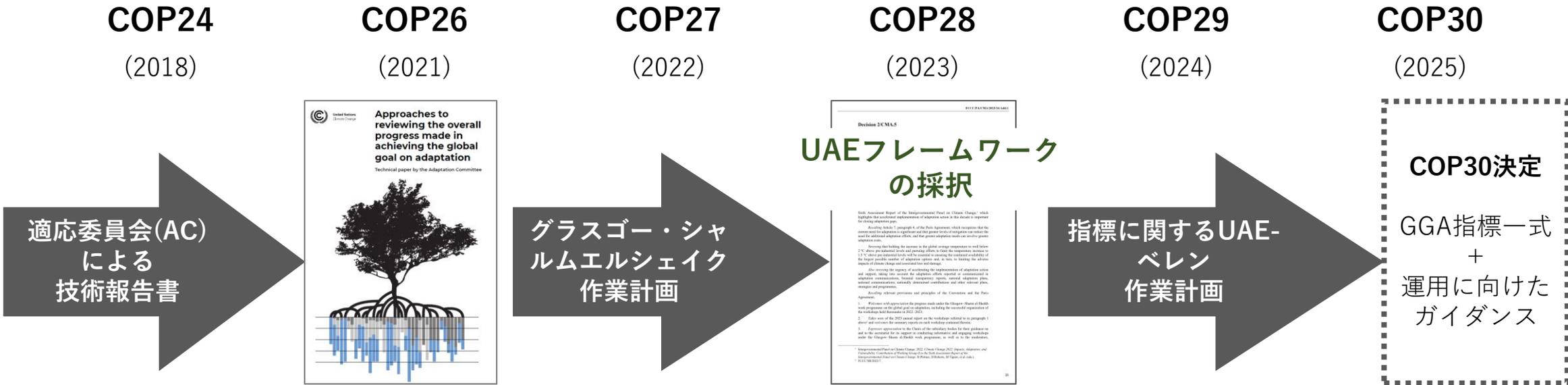
- ワルシャワ国際メカニズム(WIM)
- サンティアゴ・ネットワーク(SN)
- ロスダメ基金(FRLD) [決定文書](#)

ほぼ進展なし

適応に関する世界全体の目標：これまでの変遷

●パリ協定7条1項

▶「締約国は、第2条に定める気温に関する目標の文脈において、持続可能な開発に貢献し、及び適応に関する適当な対応を確保するため、この協定により、気候変動への**適応に関する能力の向上**並びに気候変動に対する**強靱性（レジリエンス）の強化**及び**脆弱性の減少**という**適応に関する世界全体の目標（GGA: Global Goal on Adaptation）**を定める。」（UNFCCC, 2015）



※参考：UAEフレームワークの概要（COP27および28で決定）

適応に関する世界全体の目標（GGA）

適応能力の向上

強靱性（レジリエンス）の強化

脆弱性の減少

GGA達成に向けた
進捗状況を測るための
指標を準備中

グローバルな気候レジリエンスのためのUAEフレームワーク

目的:

- GGAの達成の指針となる
- **GGAの達成に向けた全体的な進捗状況のレビュー**の指針となる

2030年までの分野別目標（7項目）



2030年までの適応サイクル別目標（4項目）



分野横断的考慮

国主導、ジェンダー、参加型、透明性、人権、世代間公平と社会正義、脆弱なコミュニティ、生態系、科学に基づく指標・測定基準、伝統的知識、先住民族の知識、地域の知識システム、EbA、NbS、CBA、DRR、社会経済と環境の関連政策と行動に適応を統合することを視野に入れた交差的アプローチ、入手可能な最善の科学に基づきそれらに導かれるものであること

情報ソース

- 各締約国からの報告書（AdComs, NAPs, NDCs, BTRs, NCs）
- IPCC報告書
- 自主的な報告書
- UN機関、国際機関の報告書

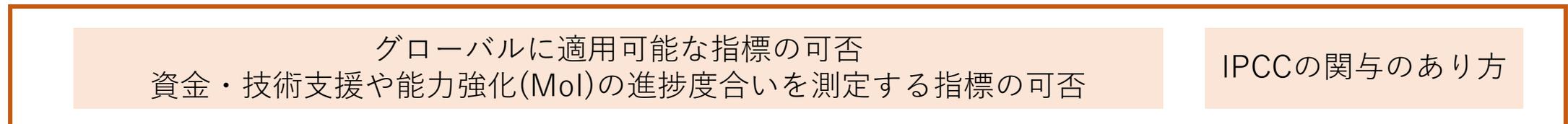
適応に関する世界全体の目標：COP29での交渉経緯

技術的内容は交渉官レベルでセクション毎に、政治的内容は閣僚級レベルで議論された。

技術的内容



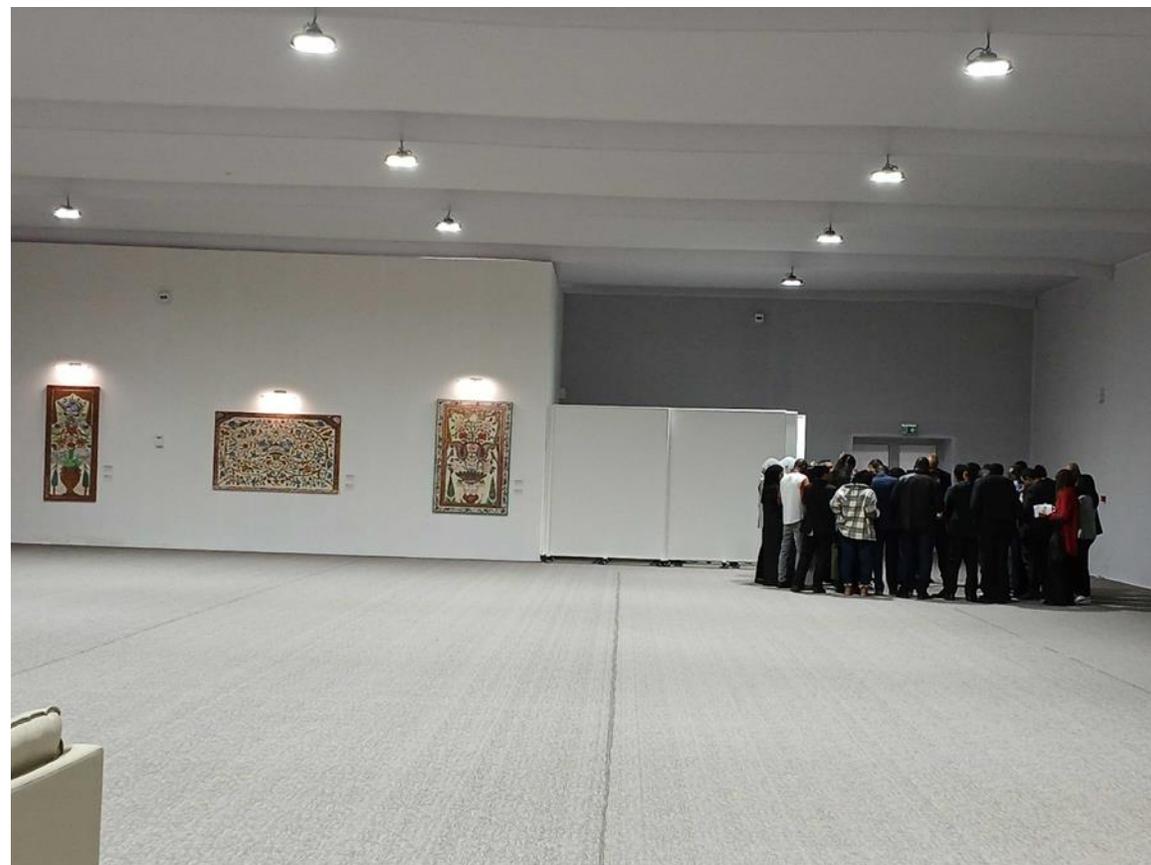
政治的内容



適応に関する世界全体の目標： COP29での交渉の様子



GGA議題にはオブザーバーも多く入口が混雑することも



深夜におよぶ会合中にもハドルで調整を行うG77交渉グループ

適応に関する世界全体の目標： COP29での交渉結果

● 指標に関するUAE-ベレン作業計画

- 専門家への追加ガイダンス：
 - 指標の数を絞り、グローバル指標を優先させ、必要に応じてMoI指標を含める。
 - 測定可能かつ既存のデータを最大限活用する。
- 最終成果物の形式：
 - 100個以内の、グローバル指標および各国が選定可能なオプション指標のセットとする。
 - 各指標の目的や利用可能なデータセットを付す。
 - 定性・定量的、インプット、アウトプット、アウトカム、インパクト、プロセス指標を含む。

● GGA議題の展望

- GGAに関する取り組み促進を目的としたバクー適応ロードマップ(BAR)の立ち上げ、およびUAEフレームワークの実施促進に向けたバクー・ハイレベル対話の毎年開催を決定（アラブ・グループによる提案）。SB62においてIPCC第2作業部会によるイベントの開催を招請。

● 変革的適応

- 事務局が報告書の要約・翻訳をしたうえで、SB62において継続検討を行う。

損失と損害（ロスダメ）：条約下の制度

締約国（その意思決定を行うCOP/CMA）

ExCom, SNLDが共同で報告、ガイダンスを受ける

理事会が報告、ガイダンスを受ける
（詳細は交渉中）

ワルシャワ国際メカニズム（2013年～）
（Warsaw International Mechanism, WIM）
⇒条約下のロスダメ対応の取りまとめを行う

ロスダメ基金、及び
新たな資金措置（2023年～）
（Fund for responding to Loss and
Damage (FRLD)）
⇒ロスダメの取り組みに資金支援

執行委員会（2013年～）
（Executive Committee, ExCom）
⇒WIMにガイダンスを与える
附属書I国から10名、非附属書I国
から10名の合計20名

サンティアゴ・ネットワーク
（2019年～）
（Santiago Network, SNLD）
⇒技術支援を促進する

専門家グループ
（Expert Group）

- 人の移動
- 包括的リスク管理
- 緩慢に進行する現象
- 被経済的損失
- 行動と支援

リスク移転に関するフィ
ジークリアリングハウス

事務局@ジュネーブ
（UNDRR、UNOPs共同）

諮問機関
（Advisory Board）

実働部隊
（organizations, bodies,
networks and experts,
OBNEs）

関係性は未整理

ロスダメ基金：COP29の結果

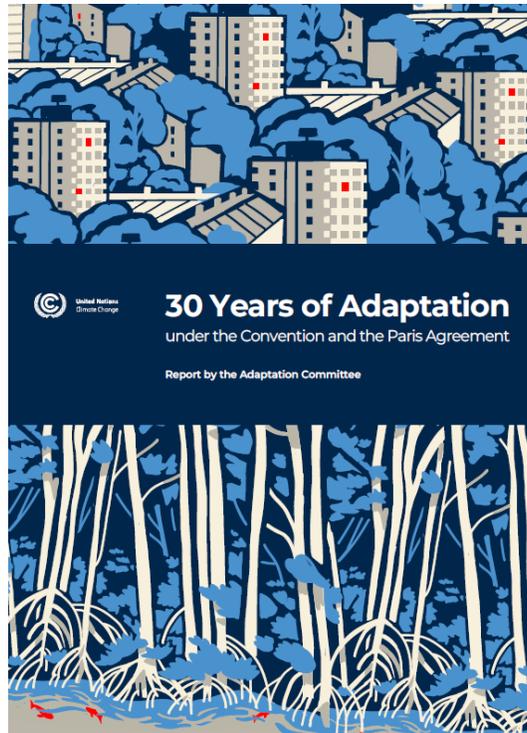
● 制度に関する合意

- SB会合とCOP会合の間に行なわれていた、ロスダメ基金（FRLD）の体制整備の進捗等を確認。事務局がフィリピンに決定。

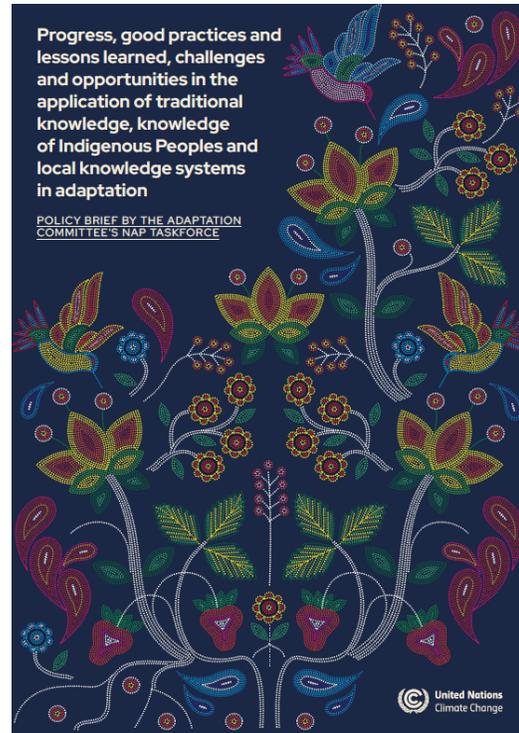
● 資金支援に関する展開

- バクー気候資金ゴール（Baku Finance Goal）の決定の中には、ロスダメに関する文言はほぼ含まれず。ロスダメ対策推進派によって期待されていたロスダメのサブゴール等は盛り込まれなかった。
- 条約外を含むロスダメの資金措置についての年次ハイレベル対話が、COP29会期中に開催されたリーダーズサミットに併せて立ち上げられた。初回対話は2025年のIMF・世界銀行春季会合にて実施予定。
- FRLDの第4回理事会が12/2-5の日程で開催。FRLDによるボトムアップ・各国主導の支援アプローチのあり方や、上記ハイレベル対話のコンセプトノート案などが協議された。FRLDの早期の支援開始に向けセッション間の作業が継続する。

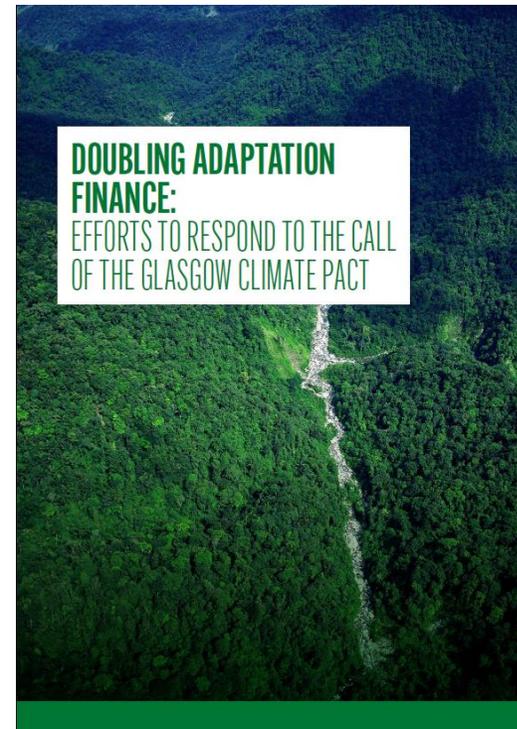
その他：COP29でローンチされた出版物



「適応の30年」
UNFCCC適応委員会



「先住民の知識システム等における適応」
UNFCCC適応委員会



「適応資金倍増レポート」
イギリス政府 他



「気候成果測定のための共通のアプローチ」
世界銀行 他

まとめと展望

- GGAに関するCOP29決定には、Mol指標が考慮されるなど、途上国側の主張が大きく反映される結果となった。今後は、グローバルな適応進捗状況の把握、各国における適応M&E（モニタリングと評価）の進展など、**指標を用いてGGAの進捗測定を行うことによって目指すべきことを明確にし**、各国の共通認識を醸成していくことが期待される。
- 国別適応計画（NAP）を含む**適応コミュニケーション（AdCom）は、パリ協定の実施・報告における重要な要素**（7条10項）。来年はAdComガイダンスの改訂が予定されている。適応委員会（AC）の議題と合わせて、COP30では議論の進展が期待される。
- **ロスダメ基金の運用開始に向けて前進**があった。今後は、資金措置についての年次ハイレベル対話等で、基金への国際的な資金動員の強化等が期待される。

ご清聴ありがとうございました